

会 議 録

会議の名称	第2回 長瀬町小中一貫教育検討委員会
開催日時	令和6年8月29日(木)午後7時00分～午後8時58分
開催場所	長瀬町役場3階 大会議室
出席者	委員13名 教育長 事務局3名
欠席者	委員 2名
会議の内容	1 開会 2 教育長あいさつ 3 議事 (1) 学校施設の劣化状況等について (2) アンケート調査の結果について (3) その他 4 事務連絡 5 閉会
会議の公開又は非公開	公開
非公開理由	—
傍聴人の数	0名
発言の内容	別紙「審議内容」のとおり
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回長瀬町小中一貫教育検討委員会 次第 ・ 第2回長瀬町小中一貫教育検討委員会 (説明用パワーポイント資料)
事務局	教育総務担当
会議録の作成方針	<input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
その他の必要事項	

審 議 内 容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)

1 開会

2 教育長あいさつ

井深教育長

3 議事

委員長)

それでは、これから私の方で議事を進めさせていただきます。

委員の皆様から、奇譚のない意見をお寄せいただければ、ありがたいというふう
に思っております。

(1) 学校施設の劣化状況等について

それでは、議事(1)の学校施設の劣化状況等について、事務局から説明をお願い
します。

(事務局から説明)

委員長)

ただいま、事務局から説明がありましたけれども、何かご意見等ございますでし
ょうか。

委員)

第一小学校の校舎なんですけど、1977年、これは多分、国道側の校舎だけだと思
います。それより数年前に、山側の、同時にはできていないので。それと私はスポ
少と中学の外部指導者でもあるので、毎週のように体育館を使うんですけど、小学
校の体育館は、屋根は良いんですけど、内側に断熱材が無いんですよ。私、県内
外のいろんな小学校、中学校行くんですけど、屋根に断熱材がない体育館というの
は珍しいと思う。真夏は非常に暑くて、他の学校はそんなに暑くないけど、長瀬第
一小学校は暑くてしょうがない。断熱材が無くて、鉄板1枚なんすよね。中学校は
なぜか、それよりも前に作ったのに、断熱材はあるんですよ。あと、床なんです
けど、多分、調査されてないと思うんですけど、中学校の体育館の床は、今まで整
備してきた中で削ってあるんですよ。これ以上削れない状況で、バスケットボー
ル中学校の試合とかで、体格の良い90キロぐらいの中学生がいたら、もう床が沈ん
でしまう。ドリブルすると、場所によって弾むところと弾まないところがあると、
そういう状況です。小学校は結構良いんですけど、所々割れて、テープで貼ってあ

ります。一応そういうところが気になります。

委員長)

どうもありがとうございました。委員がスポーツ推進委員長をやられている関係で、体育館をよく見てるということで、そういう報告がございました。中学校の校長先生、日頃、生徒や先生方が使っていて、何か先程の報告に対して付け加えることはございますか。

委員)

そうですね、施設自体、他の委員が言われるように、体育館の修繕とか、モルタルや木端みたいなもので塞ぐとかで直してあると。割れているところを見ると、本当に薄いですね。確かにボールの跳ね方とか音とかも違ったりとか、そういう状況があります。あと、体育館の入口の階段部分に雨水が入り込んで、あれ自体がもう崩れちゃったりという状況があります。また、学校の階段とか、ところどころ、コンクリートのヒビがあつたりします。通るにはあまり問題はないんでしょうけど。あと、廊下等のコードが見えるところに出ていたりして、見栄えが悪いって言っちゃなんですけど、隠せていない状態がちょっと気になります。

委員長)

今、中学校の校長先生からの補足の説明ありましたけれども、小学校の校長先生いかがですか。

委員)

先程、体育館の屋根の話が出たんですけど、私も屋根については、薄いなと感じています。暑さもそうですし、雨が降ると、結構、雨の音そのまま体育館に響くので、薄いのかなっていう感じがします。あと、屋上の工事の話が出ましたが、山側の校舎の屋上を綺麗にしてもらって、その後はですね、見違えるように雨漏りもなくなって、そこの部分については、今、すごく改善されています。

委員長)

ありがとうございました。お子さんたちが家に帰ってきて、学校の施設についてお話をされるかどうかわかりませんが、中学校のPTA会長さんいかがですか。

委員)

体育館の中というのは、非常に暑いと、夏場が非常に暑いということは聞いています。

委員長)

それ以外でも、施設のことについて、劣化状況の報告ですので、皆さんの方で気がついた、あるいは、聞いたというお話があつたら発言をしていただきたいんです

が、何かございますか。

委員)

聞いた話というわけではないんですけど、劣化した部分は、その都度、修繕をしていただいていると思います。そして、修繕した後ですね、直したところがあとどのくらい持つのかっていう、こう直したよってというのは非常によくわかるんですけども、どのくらい持つのかなと。あと30年とか40年持つとかね、よくありますよね。そういうのはどうなりますかね。

事務局)

一般的に言われているのは、大体30年くらいといわれています。先ほど、建物が50年近く経っていて、どうしてもやっぱりいつまでも使えるわけではなくて、いつかは建て替えなければならないということとなります。その中で今、文部科学省の方ですと、学校長寿命化計画という計画がございまして、その中で、校舎とか体育館とか大きいタイプの建物は80年ぐらいを目安に使っていった方がいいよねっていう話になっておりまして、それを照らし合わせていくと、50年経っていますから、あと30年ということになりますから、改修するのであれば建物の寿命、目標としましては、もし今回改修するとなると、大きい改修工事のラスト1回になるということかと思えます。

委員長)

最近の環境なんかを見るっていうと、夏は暑いし、冬は極端に寒い。それから、階段の鍾乳石と同じような白華というのがありましたけれども、あの酸性雨なんかも結構降ってますので、普通の状況でいると昔より溶けるんですよ。そういうふうなところで、地球環境の状況からみても、昔の基準で行くと劣化が激しくなると。私の大学の研究室が3階なんですけど、現職を退官してから客員で研究室をいただいているんですけど、やっぱり雨が漏れるんですよ。大学に請求するんですけども、これを言ったら、先生、あと何年まで居ますかっていう、逆にそういうふうなことを言われちゃって、その研究室に入る先生はこの後居ますかね、なんていうような話になっちゃって要求できないんですけども、基本的にはやっぱり55年、60年ぐらい経っちゃってるんですよ。管理課に言うと、ここを修理しても他も出てきますから、全面的に全部改修、あるいは建て替えるか、そういうふうにしないと、部分的にやっても、どこで雨漏りが主の原因であるかっていうのはわからないいうふうなことを言われまして、そして私も調べてみたら、他の研究所も結構漏れ出してるんですよ。どこの水が入ってきてるのかっていうのは、屋上なんですけど、どこからかしみ込んできているという状況ですので、なかなか難しいですね、劣化が始まると。自分の家でも劣化が始まるっていうと、こっちを直す、またこっちを直さ

なくちゃってというようなことで、逆に、この人件費だとかそういう日数的なものも含めて見て、結構、余分なお金を出さなくちゃならないという状況ありますけれども。劣化の状況は良くわかりました。

他の委員の方、何かございますか。お子さんから聞いていたり、あるいは、近所から聞いていたり。

委員)

第一小学校はトイレのクロスが剥がれてたり、第二小学校の体育館は鍵が壊れて取れてしまっているところもある。その辺は早めに手を入れたほうが良いかなと思う。あと、トイレ等の水を流さない匂いがこもってしまう。

委員長)

この辺は地震だとかそういう自然災害が比較的少ないですから、災害にいつも遭っているような地域に比べるっていうとまだいいんでしょうけれどもね。それでもやっぱり、40年、50年経つてくると、調査の結果のような、かなり劣化が進んでいるということで、校長先生の補足の説明から見ても、劣化が進んでるなということがよくわかりました。

この状況を報告について他にご意見がありますか。よろしいですか。

それでは議事の(1)を終了させていただきます。

(2) アンケート調査の結果について

委員長)

続きまして、議事の(2)アンケート調査の結果についてに入ります。事務局から説明をお願いします。

(事務局から説明)

委員長)

ありがとうございました。とてもいいアンケートになったんだろうと思います。中身を見ましても、なかなか、なんていうんですかね、なるほどなというふうな集約になっておりますけれども、このアンケートの結果について、何かご意見があったらお願いをしたいと思うんですけども。

委員)

アンケートの結果を拝見させていただいて、設問6にあります義務教育学校と小中一貫校、その形態を知ってますかということに対して、約6割が知らないという回答をしていますね。私、考えるにあたって、基本的には子どもさんにとってどうなのかが一番大事なのだと思ってるんですよ。その際に、設問8と設問9にある、期待とそれから課題があると。子どもを教育していく上でですね、子どもさんにとつ

てどうなのかという視点が、この2つの質問の中に一応盛り込まれてるのかなという感じがしますですね。ちょっとお伺いしたいのは、おふたり校長先生いらっしゃいますけれども、教育の現場として子どもたちにとってどういう結果が出てくるのかというの、ご意見として、私、一度伺ってみたいんですよ。

委員長)

いかがでしょうか。

委員)

子どもからすれば、多分、新しい校舎が良い、家に近いとかあるいは交通の便そういったところが子どもたちの中に出てくるとも思うので、小中一貫に対する期待は大きいと思いますけれども、反面、今言われているように、別々で、併設型とかそういった形式は、子どもたちにグラウンドの問題とか、活動場所をどう分けていくのか、どのようにしていくのか、施設そういった部分については子どもたちに意見とかアンケートとかが必要ではないかなと思います。

委員)

私が聞きたいと思ってることがですね、ここに書いてありますとおり、一貫して上がっていくことによって、ちょっといろんな資料を私も見たんですけども、中学校というところで、普通の形態ですと、長瀬町もそうでしたけども、小学校が2校あって、それがひとつになってきます。その際に、不登校が増えるというデータがあるというふうに伺ってます。中学校に上がった段階でですね。そういったことが解消されるだろうということが、一貫校になるところもメリットだというような話も伺ってます。それと逆にですね、小学校を卒業するというイベントというか、自分たちが達成感を味わえない状況になってしまうという問題もあるというような話も聞いておりますので、今、お話をさせていただいた期待と課題、その辺がある程度明確化されないといけないのかなという、結論を出す前に、ほとんどのお母さんお父さん、一貫校ということ自体をあまり知ってない状態というのは、大変危険な状態だという感じがしますので、その辺はプロのご意見をやっぱりある程度尊重しなければならないと、という点でちょっとお伺いしたかった。施設に関しては新しいのが良いに決まっていますので、新しい施設ができることがいけないわけではないんですけども、あとはもう財政の問題、その辺は町がしっかり考えていくべき問題であって、私は別の問題だと思います。学校が良くなることは当然いいことだけれども、この一貫校にするかどうかという問題とは別の視点に切り離さなきゃいけない、そういうふうに思っていますので、今の質問というか、お聞きしたい内容についてお答えいただけたらありがたいと思います。

委員)

一貫校のメリットって言われてるのに、やっぱり不登校、中1ギャップというのがなくなって、本当に9年間を通して子どもたちが学べるというメリットがあるのは事実だと思います。また、教育課程の連携が上手にできたり、そういうところから子どもたちの学力が成長していくという効果があるのではないかと、むしろ少子化に伴うそういった傾向については、すごく学校側としては、良いかなと考えています。子どもたちの中で人間関係とか、それをどういうふうに築いていくかっていうのは、家庭とやっぱり学校、小学校の保護者もいるわけで、その中で議論しながら進めていく課題も出てくると思いますけれども、メリットのほうが多いんじゃないかなと思っています。

委員)

6年生が中学校に進んでいくときに、かなり不安があるようなんですけども、去年の2月ぐらいに中学校の先生が来て、6年生の児童に対して中学校ってこんなところだよって話をしてくださったんですけども、その前に6年生の子どもたちに中学校に対するイメージを聞いてみたんですけど、お兄ちゃんお姉ちゃんがいて頻繁に中学校に行ってる子どもたちは、そんなにさほど不安を持ってないんですけど、やっぱり自分が一番上の子ですと、中学校の学校生活が始まることに対する不安というのは、かなり大きいものがありました。ですので、小中一貫になることによって、中学校に進学することについての不安っていうのは、解消されるのかなっていうのはあるんですけども、先ほどおっしゃったように、6年生が卒業を迎えることによって大きく成長するっていう部分もあります。本当に6年生が3月の卒業に向けて意識して生活するようになって、短時間ですごく成長していくのを、目の当たりにしてるんですけども、そういった機会っていうのを、小中一貫になった場合、どこかでそういったことを別の部分で育てていければいいんですけども、そういったところが、ひとつ、タイミングが必要なのかなあとということと、長瀬の小・中学生も見てると、昔の小・中学生と違って、非常に小学生と中学生の仲が良くて、卒業しちゃっても良いお兄ちゃん、良いお姉ちゃんの中学生でいてくれるので、小中一貫になったときに、そういった小学生が中学生の姿っていうのを身近に見られることになって、そういうモデル、理想的なモデルを見ながら生活できるっていうそのこのメリットっていうのも、あるのかなというふうに感じます。

委員長)

はい、ありがとうございました。先ほど委員さんおっしゃったように子どもたちの達成感っていうんですかね、6年終わったっていうこの達成感、仮に小中一貫校になったときに、どういうふうに教育課程の中でやっていくかっていうふうなことも工夫なんだろうと、かなり大事な部分だと思います。他の委員いかがですか。

委員)

アンケートを見ると、他の委員さんも言ってるように、まだ知らないとか、一体どうするのがふさわしいかって質問されてもわからないっていう状況を、非常に強く感じます。一見、何パーセントだっていうふうな数字があるんですけど、回収率が37パーセントっていうのが低すぎるなっていうのは、非常に私は残念に思ってるなど。それだけ、長瀬町の町民が小中一貫教育っていうものに対して、魅力を感じるとか感じないとかじゃなくて、まだ認識できないからこの回答の37パーセントを示してるのかなっていうふうに強く感じると同時に、設問7なんか、推測ですって言われたんですけども、結局、親から見てるとこの自分の子どもがいるときには制度を変えないで欲しいよっていうふうに推測されるけれども、そういうことじゃなくて、小中一貫教育ってこういうところが素晴らしいんだよっていうか、現実こういうことをやっていかなくても駄目なんだよっていうところを、町民にもう一度啓発していく機会を持たないと、私達の委員会が答申を出して、あれそんなことになっちゃうのっていうふうなことになったら、町民に対して失礼だっていうふうなことを感じるわけです。私は、迷ったときには条例規則っていうのに戻れるっていうことを昔から教訓のように言われてるので、あえて戻ると、設置条例に、長瀬町の地域性および特性に即した魅力ある小中一貫教育を実現するんだっていうのが大前提に出てくるので、その辺やっぱり、地域住民がどういう魅力を持ってるのか、特性があるのかっていうのは、再度いろんな方法から、今の時代ですから、大々的に郵送などしなくても、Web等で意見を聞く機会を増やしていかないと、この問題については、町民の意識が上がっていかないんじゃないかなということを感じました。以上です。

委員長)

ありがとうございました。学校の運営協議会の会長をされている委員さん、どうですか。

委員)

私も他の委員が言われたように、ちょっとあの回収率の低さにすごくびっくりしていて、たまたま、うちの息子にも来ていたので、自分でやりなさいって言ったんですけども、若い人の回答もだいたい29歳以下が2.7パーセントということで、それほど回答していなかったんだなと思って少し残念に思ったんですけど、本当にこの小中一貫に関してあまり町の人に関心を持ってないのかなっていうのが、突きつけられた感じで、少し本当に残念な気がしました。小中一貫にしたいとか、不安とか課題とかっていうのって、実際、小学生や中学生に聞いてみたいなあと思います。過去に、私達が自分でどう感じるかっていうのが、当たり前小学校6年生から卒

業して中学校でいろんな小学校と一緒にって中学生になるんだってという感じで過ごしていたので、それが無くなって、6年生、節目がなくて、そのまま続くっていうのにどんな気持ちでいるのかっていうのが、ちょっと今、実際のところ聞いてみたいなっていうのがすごくあります。

委員長)

ありがとうございました。他に何かご意見ございますか。

私もこのアンケートの結果の中で設問6がとても気になったんですよね。この小中一貫校について知ってるか知らないかというふうなことなんですけれども、半数以上知らないようなことで、これを早急にどういうふうに、町民の方々にあるいは小中学校に在籍をしている保護者に、どういうふうにこの知らせしていくかっていうことが、結構早急に大事になるんだなというふうに思うんですね。長瀬町も高齢者が多いですから、お子さんがいないところも多いですから、そういうふうな意味では、お子さんがいないとそういう関心がないですけれども、とりあえずはお子さんがある、小中学校のPTAや保護者の方に、やっぱりこういうことが、今、町として動いているんだというふうなことを知らせるその手段っていうのも、大事なんだなというふうに思うんですね。町広報紙だとか、ああいうところでも頻繁に出していく必要があるのかなというふうに思っています。それから併せて、関心を持たせる意味では、このアンケートがあったということは、この用紙をもらった人たちは知っていますので、どういう結果が出たかっていうふうな、これを結果を知らせなくちゃならないと思うんですね。それは、事務局の方でどういうふうにこの後、考えておりますか。

事務局)

結果のフィードバックという話をいただいたかと思えます。実は、第1回の委員会終わった後、区長回覧という形で委員会だよりというものを回覧をさせていただいたかと思えます。第2回委員会が終わった後につきましても、同じような回覧物を出させていただきたいと思えます。また、昨年度の話になりますけど、学校統合準備委員会につきましても学校等を通じて保護者の方に配布をさせていただいておりますので、同じようにですね、何らかの形で保護者の方、町民の方にフィードバックをさせていただければというふうに思っております。

委員長)

はい、ありがとうございます。やっぱり、作業のタイムスケジュールですかね、きちんと作っていかないと手遅れになるというふうなことも出てくるかというふうに思うんですね。そういうふうな意味では、事務局の方で、次の時に示していただければありがたいなというふうに思っています。今日は、2つの報告事項だったん

ですけれども、この際、委員さんの中から何かありますか。

事務局)

事務局側からで申し訳ないんですけれども、アンケートの結果はこういった形になってございますけれども、ぜひ委員の皆様、方向性というかですね、今のこの段階でどっちがいいという議論にはならないかなと思いますけれども、例えば義務教育学校がいいのか、小中一貫型の小学校・中学校がいいのか、あるいは施設も、アンケートとしては小学校又は中学校に寄せる、あるいは建て替えがいいのか、改修がいいのか、そういった内容について、ぜひ私どもとしては、委員の皆様のご意見を伺いたいと思っております、その辺をご議論いただくと助かるなと思っておりますけど、いかがでしょうか。どっちかに決めるということではなく、皆さんがどういったご意見をお持ちかなっていうことを、確認をさせていただきたいと思っておりますけれども。簡単に、今の所感、ご意見を伺えればと思います。

委員長)

それでは、皆様よろしいですかね、簡単に。

委員)

私は商工会という立場で言ってますので、教育は本当に無知で大変恐縮なんですけど、先ほど校長先生にもご意見をいただいたというところなんですけど、一貫教育についても、ほとんど元々知識を持っておりませんでこの席に臨んでます。ただ、先ほどからお伺いする中、やはりおふたりの校長先生が、一貫教育の方がいいと思っただけの様子を拝聴したように思います。その面からいきますと、もっと自信を持って一貫教育をきちんと町民に説明をして、こういう方向で行くんだということを進めていく、それがいいのかなと思います。建物については、当然、大人の責任というかですね、子どもさん、お孫さんそれぞれいるわけなんですけれども、行政の責任として、なるべく建て替えをしていくということの主眼にして、できるかどうかというものは、もう政治判断でしょうから、そこから先は我々が踏み込むことはできませんので、その前提条件で進めていくのがいいというふうに個人的には思ってます。以上です。

委員)

私個人的な意見で、義務教育学校、校長1人がいいかなっていうふうに最近まで思ってたんですけども、アンケートを聞いて、やっぱり小学校は小学校の良さを生かしていく、中学校は中学校の良さを生かす、それが一緒に併設してあるという、小中一貫型の小中学校、併設になるかどうかはわからないんですけど、そういった形の方がと、話を聞いて思っています。その中で、やっぱり学校、節目とかの問題もあるので、別々にやるものは別々、一緒にやって行くものを考えながら、教育課

程を組んでそういったものが、実際のところ、どちらでもできるとは思うんですけども、そちらの方がより細かいっていうか、配慮の効いた指導が行き届くのではないかという気はしています。少子化の問題があって、学校のこういった状況はやむを得ないと思うんですけども、子どもたちにとって、文化を引き継ぐとていうか文化を作っていく、そういったものをより良くしていくためには、そういった形のほうが、中学校、小学校いろいろとあると思うんですけど、そういった形のほうが良いかなと、今は思っています。

委員)

私の意見としましては、小中一貫型小学校・中学校のほうが、校長もそれぞれいて、小中一貫型の小中の小・中学校が良いかなと思います。建物については一緒に、図書館等の町の施設も含めて、そういったものができると良いかなと思います。

委員)

私は小中一貫型が良いかなと思っていたんですけど、ここに来てそれぞれにメリット、デメリットあると思うんですが、義務教育学校のほうが良いのかなと思っています。それから建て替えについては、所有地の問題なんかもありますので、中学校は中学校の場所、小学校は小学校の場所で建て替えをしたほうが、一緒にして統合して、同じ場所にするだけの土地があるのかなと、そういった問題も出てくると思っていますので、今の場所でそれぞれ建て替えというのが良いのかなというふうに思っています。

委員)

一貫教育ってというのは、教育自体もわからないし、私どもの子どもも家を出ちゃってるんで、なかなか、小学校の教育なり中学校の教育からなかなか離れているのがわからないということで、勉強させていただきまされたけれどもでも、私立学校なんかで今流行ってるのが、小中高一貫も流行っているし、いろんなメリットもあると思うんですよね。今の時点で考えると、財政的なものもあるかもしれませんがでも一貫教育の方がいいのかなっていう部分がございます。施設の問題ですけども、どうもこの問題があると財政的なものもあるし、今後の負担もあるし、いろいろ考えなくちゃいけないかと思うんですけども、私も70歳に近いところになるんですけども、将来に負の遺産を残していけない。もう50年も経ってるのに、70年たっているのか、50年でいいのかよくわかりませんが、できることがあれば、もう何年かかるのか知らないんじゃないかと、ここに住む未来を担う子どもに、負の遺産を残さないような設備、安心して暮らせる長瀨町のまちづくりを考えていただいていた方がよいかなと思うわけです。

委員)

私の考えは、やっぱり虫の目線とか鳥の目線とかっていう話をよく聞くんですけど、鳥の目線のように遠くを見ていかないといけないんじゃないかなっていうふうに思っているんですけど、私は義務教育学校、校長はお1人でやっていくっていう形が、一番の理想だと思います。過日、中央教育審議会の答申が出されて、文部科学大臣に、教員の処遇改善っていうことが新聞を賑わせてましたけれども、あれ以外にキーワードが小学校3、4年生も教科担任制にしていきたいんだよっていう世の中の流れがあるわけです。義務教育学校で校長が1人でやると、教育課程を1年から4年生までにするとか、5年、6年は中学校の方からの要請で教科担任制を実現できるかっていう、非常に魅力ある学校教育が展開されるのが、義務教育学校なんだと思います。私は教育ってのはマンパワーだっていうふうに思ってます。教育の内容っていうのは、熱を持ってるとし、教員集団がやればどんなことでも解決して行って、盛り上がることはできるんだけど、マンパワーがない限り、教育って盛り上がりません。一小と二小が統合されましたけども、いくら旧二小が良い教育をやっても、子どもが少ないとマンパワーがない、発揮されないんだってことはもう誰もがわかることです。一貫教育にすることによって、小学生と中学生が一緒に来ると、これだけのパワーがあって、長瀬町の子どもたちのマンパワーを表現する場所ができるという効果を考えていけば、教員集団の熱もそこで生まれるっていうふうに私は信じているんですね。その辺のところをやっぱり考えて行ってほしい。あとはどれだけ町民に、繰り返しになりますけれども、啓発して意識を高めていくかによって、地域の教育力っていうのは上がるかなと思います。以上です。

委員)

私は、義務教育学校の方がいいなと思ってます。ひとつの校舎で9年間っていう感じで、先生の数も増えて、レベルの高い勉強がしたいっていう子は小学生でも中学生でもいるでしょうから、中学3年生の動きを見て、6年生で止まらず、もっと上のすごい動きとかも見えるし、比較できる良い機会もあると思うので、義務教育学校のほうが良いと思います。

委員)

私は、小学校1年生と4年生の息子が、今、第一小学校に通ってしまして、移住して10数年です。なおかつ事業を町内で行っているんで、かなり納税はしている方かなと思います。そうするとやっぱり予算とか財政とかっていうのはやっぱり気になる、無駄に税金は使われたくないっていう気持ちは無くはないんですけども、お話を聞いていると、合理的でなおかつ補助金があると聞くと、それだったらやった方がいいとしか思えなくて、変化も大好きなので、やはり基本的には建て替えと小中一貫に関してはもう、賛成の立場なんですけど、子どもたちに言うと、別にあまり関

心がないというか、委員に選ばれたのでお話をしても、子どもたちは新しい校舎には興味がありますけど、それ以外特にわからないかなという感じはしますけれども、私はそういう考えです。

委員)

私は、子どもは卒業しちゃって大学院生と高校生なんですけど、PTAの会長を小中合わせて、役員を含めて15年ぐらいだったんですけども、今もスポーツ推進員とスポーツ少年団の指導者として10年近く携わって、保護者の方といろいろとお話を聞く機会も多いです。PTAで話すよりも、スポ少の保護者と話す機会が多いですけど、今回のアンケートは良くわからないけど、もう期限が過ぎちゃったからとか、ちょっとその辺が残念だなんていう感じがしました。スポーツ少年団の方、ミニバスの6年生まで教えているんですけども、他の地区のスポーツ少年団だと、中学に入ると全然関係が無くなってしまって、送り出したら終わりっていう感じのところも多いんですけど、自分としてはミニバスをやっている子がそのまま中学校に行って、バスケ部に入って強くなって、今まで一度も出たことない男子バスケットボールを県大会に出場させるのが、一応、私の夢は夢なんですけども、子どもたちが同じ夢を持ってもらいたいなというところで、やはり中学に入ると顧問の先生がいて、顧問の先生の考えで指導をしているところで、ミニバスから中学っていう、昔はそういうことはなかったんですけども、数年前から校長先生と話をして、外部指導者に入れてもらえて、息子もバスケット部に所属したっていうところもあってですね、ミニバスで教えたことを引き続き中学の方でも転嫁して、逆に中学校に行くための指導を、小学校の6年生の後半ぐらいから大きいボールを使わせるとかっていう形で、要するに連携、学校の連携ではないですけど、スポーツの連携で、ちょっとテストパターンですけど、自分なりにいろいろと計画を立ててやってたんですけど、なんかそれが実を結びつつあるかなっていうところまで、一步手前までいってるかなっていうのもありますけども、まあ指導者が変わるのも子どもたちの成長のひとつっていうところもあって、校長先生が小学校にいて、中学校にいて、でいろいろと話し合っって連携を取ることによってっていう、それで良いんじゃないかなっていうのが、基本的な私の考えです。施設に関してはですね、私がスポーツに携わることが多いので、体育目線で考えちゃうんですけども、アンケートにもあったところで、大きい市町だと利用団体が多くて、競争が起きてるとかっていうところもあるんでしょうけども、今の状態でそんなに、長瀨は争いもない状況なので、改修をしてそのまま利用することと新しくするのがひとつ、そういうパターンがあると思うんですけど、現体育館の方を改修する場合は、いろんなお金をなるべくかけないで、例えば中学校の体育館の床とか張りかえるとすごく高いんで、本庄市の

シルクドームのように板の上にラバーの床を張ってやっていると、それであれば何とか改修しなくても、張るだけで何とかなるんじゃないかなっていう気持ちもあります。今、一小の体育館と旧二小の体育館は避難所になっているんだと思うんですけども、避難所の問題も出てくるんじゃないかなっていうところもあります。新しい体育館を造る場合ですと、今の子どもたちの児童生徒数に合わせて大きさとかっていう形で作ってしまうと、今、バスケットボールという広いコートなので、現在活動している競技にも活動に影響が出てくるというところで、大会が開けないとか試合ができないとかというのも困るなというところで、逆に地域の方も使えるっていうことであれば、観客席があつて、地域の方が使えて、できればバスケットは横に2面、縦に1面取れる大きさであれば、どんな競技でも使える。そういったところがあれば、理想なんですけど、そうすればいろんな大会を開いたりとか、いろんな発表会もできるしっていうこともあるなっていう。ただ、それが土地の大きさとか費用とかも変わるので、一応そういうのもあるかなっていうところ考えてます。校舎については、やはりひとつの場所でやった場合、小学校1年生と中学3年生だと体格に差があるので、その辺が同じところで何か事故が起きないかっていう、ちょっとそういう不安もあります。ミニバスでも小学校1年と6年生と同じフロアで試合することがあるんですけど、見てるほうがヒヤヒヤするので、そういったスポーツの面から見て、それが学校の生活の中で、ひとつの校舎だったときに、ちょっとぶつかっちゃったっていう、大怪我しちゃうとかっていうそういうところも心配だっていうのはひとつ気がかりです。

委員)

まず、校舎の建て替えについては、やはりもうこの先を考えても、もうこういう機会がないので、建て替える方向で賛成です。教育については、やはり小中一貫、の方向性で行ければいいんじゃないかなとは思っております。敷地面積もあるので、あれなんですけども、先ほども皆さんの意見から出てるんことあるんですけども、やはり同じ敷地内での中学校と併設型の小学校みたいな形がいいのではないかなっていう気はしております。というのも、先ほど運動の面にしても、やはり中学生と小学生高学年、低学年についても、やはり運動能力の差もありますので、そこをうまく同じ敷地内で小学校と中学校の連携が取れて、上手く活動もできればいいのかなと思っております。ちなみに、うちの娘が通ってる高校っていうのが私立なんですけども、高校と中学校が同じ敷地内にありまして、そこで活動してるケースがありますので、私も高校の方の役員もやらせていただいているんですけども、やはりあんまり高校に行く機会がないので、なかなかどういう感じになつてくるかっていうのが、うまく連携がどういうふうにとれてるのかっていうのはわからないんですけど

も、役員会自体も中学校と高校が同じ役員会の中に同じ場所に参加してやってるってということもありますので、そういったことも今度中学校と小学校の役員が一緒に連携してできるのかなという良い面もあるのではないかと考えております。以上です。

委員)

まず、小中一貫については、義務教育学校が良いかなと思います。それから、校舎の方ですけども、建て替えの予算とか考えられる余地があるのであれば、当然、建て替えて、場所については、同じ敷地が良いんじゃないかなと思います。義務教育のところは、正直まだ、他の委員が言ったように、運営の面をしっかりと、もっと論点をいろいろ整理しないと、何とも最終的な答えがこれでいいのかっていうのを自分自身もまだしっかり判断できてるわけじゃないんですけども、先生方の確保の問題だとか、それからちょっと飛躍して言うと、地域の魅力を作るという面から見ても、新しい義務教育学校に、その辺の見出す価値があるんじゃないかなというふうに感じてます。私はスポーツ協会でやっていまして、空手を教えてるんですけど、小学生から中学生までいます。種目が珍しいということもあると思うんですけども、やっぱりそれなりに教えていてしっかり名が通ってくれば、皆野、秩父とかそれから寄居、花園からも通ってくる子もいますので、長瀬がそういう教育をして、ある程度魅力があれば、この辺の地域の中で、過疎という課題もありますが、違った効果があるのかなという思います。先ほど言ったように4-3-2年制の学級ですか、以前紹介としてはあったと思うんですけど、それを具体的にそういうことがあったときに、今日出たいろんな課題が子どもたちも含めて、どういう課題があるのかそれがどうクリアできるのかっていうのは、もう少しその後、丁寧に整理できるかなと思っています。それから、校舎の方ですね、先ほど申し上げたようなところなんですけれども、やっぱりスポーツ協会としても利用させていただく団体が多いので、その観点から言いますと、今日、他の委員の方からもありましたけど、やはり暑さの問題とか、昨今の熱中症等とかもあって、これは地域の人たちだけではなくて、子どもたちも非常に危険な部分もあると思うので、建て替え等の希望がかなう場合には、ぜひその辺のですね、昨今の地球環境の方にも配慮していただきたいということと、それから付け加えて、先ほど出ましたかね、地域で使う場合は、やっぱり校舎の中にいろんな観客というか親御さんとか来ますと、本来のやる人だけ以外の人 comes 来てますんで、ちょっとスペースの問題が、本来のスペースが利用できなくなる場所もあるので、もし可能であれば、そういった親御さんや地域の人が見ても、本来のスポーツスペースが確保できる規模のものを建てると思いますか、そういうところは配慮できたら、なお良いなと思います。

委員)

まず、個人的な意見となるんですけど、この委員のお話をいただいたときに、何を考えなきゃいけないのかなっていうふうになっちゃったんですけど、まず、小中一貫になる、その義務教育学校か小中一貫型のいずれにしても、学校で教育をされてる先生方の意見と実際に通われてる方の保護者の方の意見っていうのも、丁寧に伺って調査をしていただきたいなっていうのがあります。自分の子どもが成人しているんで、実際には直接っていうことではないんですが、読み聞かせということで学校の方に携わっております、第二小学校が第一小学校と統合して、第一小学校ってどうって印象を旧第二小学校の子どもに聞いたら、人数が増えて楽しいっていうような、そういう意見を聞きました。どういう形を取っても、はっきり言って、いじめとかそういういろんな問題が起こると思うんですが、子どもたちが教育を受ける場所っていうことを私達は考えていかないとかなって思って、それが一番の委員会に参加するときに抱いていた気持ちです。今回のこのアンケートの回収率等もありますが、はっきり言って関係のない、もう子どもがいない、まして高齢化が一番重要視されているこの長瀬町で、小学校のことを考えてられないという方が、自分たちの老後の方をもっと考えて欲しいっていうのを、生の声でたくさん聞いてますので、実際にはこれぐらいの回収率なのかなっていうふうに思います。校舎については、予算を取れるのであれば、もう建て替えにしたい。子どもたちは、新しいのが良いと決まってるんで、建て替えを前提として話を進めていきたいなっていうふうに思っています。実践校のいくつかそういうリサーチっていうのは、されているのかと思うんですが、そういうところの意見、実際にどうだったかっていうのを、さらにもう少し調べて、意見を伺いたいなっていうふうに思います。なので、個人的な意見としましては、義務教育学校が良いのか、小中一貫型小学校・中学校が良いかというのは、まだはっきり決められていません。それで、そういうのを踏まえた上で、後々の長瀬町は、とても子どもの教育に対して親身になってやってくれる町だっていうことが伝われば、人口の増加にもなるんじゃないかというふうに思ってます。ぜひとも良い方向で、検討したいと思います。

委員長)

委員の皆様方に急な意見を求めまして申し訳ありませんでした。貴重なご意見ありがとうございました。事務局の方でよろしいでしょうか。

事務局)

ちょっと皆様の意見を聞いてですね、補足をさせていただければと思います。今後、小学校・中学校各1クラスになってまいります。その場合、教育委員会として、学校管理する側として、例えば中学校3クラスになると教職員の配当基準って、事

務職員が県から来なくなります。ということは、事務職員を町で雇うっていうことで、何百万円っていう職員を雇うだけの経費もかかってきます。そういうところもあるということは、頭の中に入れておいていただけると良いなと思ってます。また、学校は災害時の避難場所になっています。築50年、60年、大規模改修して耐震も大丈夫ですと言っても、なかなかそういうところも、今後、災害時とか、厳しくなるんじゃないかなって個人的には思っております。また、財政のことが出ましたけど、例えば埼玉県で裕福な市というと戸田市なんですよ。すごく、お金持ってますけど、借金して建物を作ったりします。なぜかっていうと、世代間負担の公平化っていう、皆さんが車を買うときにローンを組んで買うのと一緒で、分割した方が良いという発想もあります。そういうことなので、借り入れ自体は悪いことではないというふうなのが、自治体の仕事のやり方っていうことも、ちょっと頭の中に入れていただくと良いのかなと思います。それから、町の議会には、総務教育常任委員会というのがありますけど、今年度の所管事務調査は、小中一貫教育についてです。議会の方でも、独自に勉強していただいているところがございます。それから、義務教育学校と小中一貫型の学校、実は今年度の1月に、教育委員会で日高市の武蔵台小・中学校と飯能市の奥武蔵小学校と奥武蔵中学校の視察をしております。このときの資料を、もし先方の了承がいただけるのであれば、また皆様に資料提供できるんじゃないかなと思ってますので、こういうことやってるんだっていうふうな具体的な事例が皆さんに伝われば良いなと、皆さんのお話を聞いて思いましたので、先方にご了承いただければ、資料の配布ができれば良いかなと思ってますので、よろしく願いいたします。

委員長)

ありがとうございました。小中一貫校の実践校、インターネットで見ると、結構、報告が出てますので、委員の皆様方も時間がある時にそんなのを参考にさせていただければありがたいというふうに思います。ぜひ、全国ターゲットで見ていただいて、先ほど委員さん、どなたかおっしゃいましたけども、長瀬町の教育はこういうふうに良いんだと、いうようなところが、誇れるような形にしていければと思います。移住してきて、子どもがここで育っているというようなことで、移住された方の意見なんかもととても大事になるというふうに思いますので、ぜひ、将来、長瀬町の教育が秩父郡市だけではなくて、埼玉県の中でも誇れるような、この間ちょっと何かテレビを見ていたら、長瀬町に移住された方が出演されていましてけれども、ああいった方の意見なども参考になりますね。ああいう方々が増えてきて、賑わいができてくれれば良いなと思いますね。

できるだけ意見を集約をして、早い段階で出していかないと次は進まないという

ようなこともありますので、ぜひ、私も勉強しますので、委員の皆様方にも情報を集めていただいて、勉強していただけるとありがたいと思います。以上でよろしいでしょうかね。

それでは議事の（２）を終了させていただきます。

（３）その他

委員長)

続きまして議事の（３）その他ということで、委員の皆様から何かございますでしょうか。よろしいですか。それでは、議事（３）のその他は終了とさせていただきます。予定をしておりました議事は全て終了しましたので、本日の議長の任を解かせていただきます。

4 事務連絡

事務局)

小中一貫教育に係るワークショップを開催する予定であります。令和6年9月25日と12月5日に実施する予定で、各学校と各PTAの方から数名の方に出発していただき、ゾーニングの検討ですとかいろいろご意見を伺うという方向で進めてまいりたいと考えております。

次回の委員会の日程ですが、ワークショップの実施内容に応じましてその後という形で、少し空きますが、1月中旬ぐらいを予定させていただければと思っているところでございます。

5 閉会